

一般社団法人日本カウンセリング学会第57回大会

プログラム

発達と関係性に焦点を当てたアプローチ

〔研修会：オンデマンド配信〕

2025年8月30日(土) 13:00～9月30日(火) 18:00

〔大会：対面〕

2025年8月30日(土)～31日(日)

江戸川大学

〔大会：オンデマンド配信〕

2025年9月13日(土) 10:00～10月5日(日) 18:00

一般社団法人日本カウンセリング学会第57回大会準備委員会事務局

● 目 次 ●

◆ 研修会のご案内	1
◆ 大会日程	4
◆ 大会参加の皆様へのご案内.....	5
◆ 大会招待基調講演..... Richard Erskine.....	11
◆ 特別招待講演 1..... 遠藤 利彦.....	13
◆ 特別招待講演 2..... 小林 隆児.....	15
◆ 大会準備委員会・カウンセリング心理士会共同企画シンポジウム 福島 哲夫・岩壁 茂.....	17
◆ 大会長講演	20
◆ 理事長講演	21
◆ 受賞者講演	22
◆ 57 回大会会員集会	24
◆ 自主企画シンポジウム.....	25
◆ ポスター発表	30
◆ 第 57 回大会後援団体・機関	
◆ 第 57 回大会準備委員会メンバー	

一般社団法人日本カウンセリング学会「カウンセリング心理士養成カリキュラム」準拠

一般社団法人日本カウンセリング学会第 57 回大会 研修会のご案内

配 信 形 態：オンデマンド配信

配 信 期 間：2025年8月30日（土）13:00～9月30日（火）18:00

研 修 時 間：全研修コース 2.5 時間

研 修 証 明 書：視聴後期日までにレポートを提出した方に発行いたします。ご注意ください。

研 修 倫 理：動画の録画・撮影・転載を禁じます。また、研修で紹介される事例にはフィクション加工を施しておりますが、内容に関する守秘は厳守願います。

研修プログラム

コース	研修タイトル	講 師
1	リチャード・アースキン博士の統合的心理療法 (A⑥：現代のカウンセリング理論・技法)	室城隆之（江戸川大学）
2	カウンセリングの理論と実際 ―カウンセリング心理士の心得― (A①：カウンセリングの理論と実際)	田上不二夫（筑波大学）
3	心理検査の理論と実際 (B③：心理検査の理論と実際)	宮崎圭子（跡見学園女子大学）
4	ゲシュタルトセラピー：関係と対話の心理療法 (A⑥：現代のカウンセリング理論・技法)	岡田法悦 (ゲシュタルト・インスティテュート／こころの研究所)
5	TA（交流分析）によるカウンセリング ―トリートメント・プランの視点を中心に― (A⑥：現代のカウンセリング理論・技法)	関真利子 (成城大学学生相談室カウンセラー)
6	不眠に対する認知行動療法 (F①：保健医療分野のカウンセリング)	山本隆一郎（江戸川大学）
7	高等教育機関における障害学生支援と合理的配慮 (F③：教育分野のカウンセリング)	篠田直子（信州大学）
8	トラウマと愛着の視点に基づく親子への支援 (F②：福祉分野のカウンセリング)	小平かやの (東京都児童相談センター)
9	コミュニティと心の育ち (F⑥：コミュニティ・カウンセリング)	田中哲 (子どもの虐待防止センター クリニック「やまねこ」)
10	子どもの自傷行為を理解する (F②：福祉分野のカウンセリング)	飯島有哉（富山大学）
11	行動活性化の理論と技法 (A⑥：現代のカウンセリング理論・技法)	田中圭（聖徳大学）
12	子どもの学校適応を支えるソーシャルスキルとは (F③：教育分野のカウンセリング)	藤原和政（兵庫教育大学）
13	トラウマインフォームドケアの実装に向けて ―対象者・支援者・組織の安全を高める― (A⑥：現代のカウンセリング理論・技法)	野坂祐子（大阪大学大学院）
14	ゼロから学ぶブリーフセラピー (A⑥：現代のカウンセリング理論・技法)	野口修司（香川大学）
15	キャリア教育とカウンセリング (F③：教育分野のカウンセリング)	本城慎二（清泉女子大学）
16	カウンセリングに活かす援助要請 (F③：教育分野のカウンセリング)	永井智（立正大学）
17	マインドフルネスの理論と実際 (A⑥：現代のカウンセリング理論・技法)	井ノ山正文 (教育環境研究センター)

受講準備のために

ネット環境のチェック

ご使用になりたい端末が Web 会議など可能な状態か否かを調べてください。

＊グーグル検索で「スピードテスト」と入力して検索する。

＊「インターネット速度テスト」が表示されたら、右下の（青い枠）「速度テストを実行」をクリック

＊テストの結果、可能な状態かどうかが表示される。（あくまでも目安のテストです。）

一般的に、ストレスなく通信できるのは 10Mbps（スマホは 5Mbps）～ 30Mbps 程度とされています。

インターネット環境に関する不具合は、主催者側では対応いたしかねます。
各自インターネット環境の調整をお願いいたします。

参加方法について

【オンデマンド配信 コース 1～17】

1 オンデマンド配信視聴の参加方法について

研修会に参加される方には、参加登録後、ご登録いただいたメールアドレス宛にお申込み控えメールが送信されております。Web 開催（オンデマンド配信）サイト URL を記載しておりますので、オンデマンド配信はこちらからご参加ください。

8 月 30 日（土）13 時より視聴可能となりますので、9 月 30 日（火）18 時までの期間内にご視聴ください。

2 講座の資料は研修会ホームページよりダウンロードできます。（研修会時にご自身で利用される目的以外の複製禁止）

3 研修会の録音・録画はご遠慮ください。

4 レポート提出について

研修講座の視聴確認のために、講師から出された課題について 400 字以内でのレポートを提出していただきます。動画の視聴を完了すると、レポート提出フォームへのアクセスが可能となりますので、レポートを入力して提出してください。

レポートの提出を確認・合否判定後、修了証を発行いたします。

修了証は 10 月下旬以降、PDF にしてご登録いただいたメールアドレス宛にお送りいたします。

なお、学校心理士の更新ポイントを希望する人は、レポート提出時に学校心理士番号を入力してください。

＊提出可能期間 8 月 30 日（土）13：00～9 月 30 日（火）18：00

領収書について

参加登録システムから直接ダウンロードしてください。

研修会（大会）は各有資格者の更新ポイントとして認められています
カウンセリング学会カウンセリング心理士 更新ポイント

研修会の受講者 2.5 時間 1P （大会参加者 2P）

臨床心理士資格更新ポイント

研修会の受講者 2.5 時間 1P （大会参加者 2P）

学校心理士資格更新 B1

研修会の受講者 1P

＊今大会では、学校心理士の受講証明書は、ご請求された方のみ発行いたします。
大会準備委員会事務局にご請求ください。

修了証について

受講者には、日本カウンセリング学会理事長の修了証が発行されます。

- ・レポート提出・合否判定後にご登録いただいたメールアドレス宛にお送りいたします。

一般社団法人カウンセリング学会第57回大会スケジュール

9:00		9:30		10:00		12:00		13:00		15:00		17:00		17:30	
2025/ 8/30 (土)	受付	開会挨拶	大会招待基調講演 Richard Erskine (オンライン) 映像ホール	ランチタイム	特別招待講演1 「アタッチメント理論の 行方を占う」 東京大学大学院 遠藤利彦博士 映像ホール		大会準備委員会・カウンセリング心理士会 合同企画シンポジウム 「カウンセラーの発達： スーパービジョンの視点から」 岩壁茂先生・福島哲夫先生 映像ホール								
					自主シンポジウム E202 教室		自主シンポジウム E212 教室								
					ポスター発表 (PDF) E211 教室										

9:30	10:00	12:00	13:00	14:00	15:00	15:45
2025/ 8/31 (日)	受付	特別招待講演2 「情動と関係に焦点を当てた 精神療法を神経生物学の視点を 交えながら考える： アラン・ショアの理論を含めて」 感性教育臨床研究所 小林隆児博士 映像ホール	ランチタイム	大会長講演 映像ホール	理事長講演 受賞者講演 映像ホール	会員集会
		自主シンポジウム E202 教室・E212 教室		自主シンポジウム E202 教室		
		ポスター発表 E211 教室		ポスター発表 E211 教室		

大会現地参加者へのご案内

1 日時

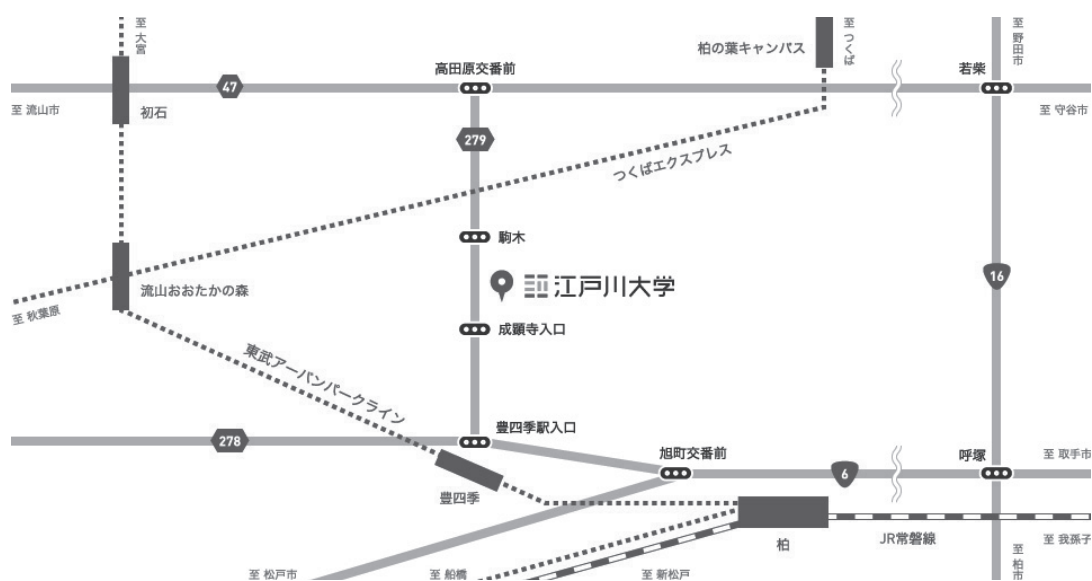
2025 年 8 月 30 日（土）～ 31 日（日）

※受付開始時間：8 月 30 日（土）9 時、8 月 31 日（日）9 時 30 分

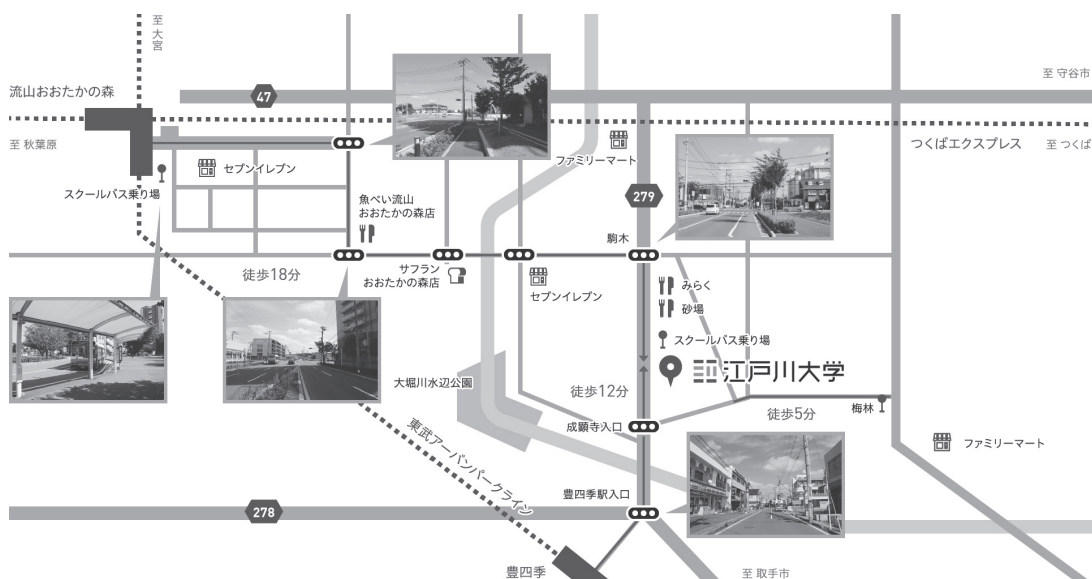
2 会場アクセス

〒 270-0198 千葉県流山市駒木 474

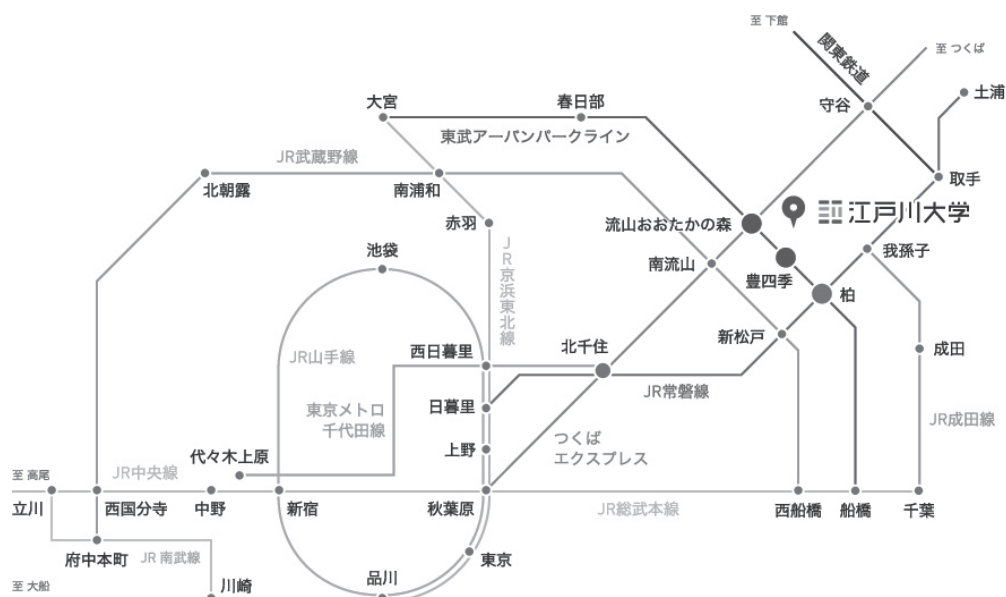
<江戸川大学周辺>



<最寄り駅から江戸川大学までの徒歩ルート>



＜電車でお越しの場合＞



＜最寄り駅から大学まで＞

秋葉原	つくばエクスプレス 約10分	北千住	つくばエクスプレス 約13分(快速)	流山 おおたかの森	無料 スクール バス 約6分
つくば	つくばエクスプレス 約11分(快速)	守谷	つくばエクスプレス 約6分(快速)		
南浦和	JR武蔵野線 約25分	南流山	つくばエクスプレス 約3分(快速)		
西船橋	JR武蔵野線 約17分				
大宮	東武アーバンパークライン 約14分(急行)	春日部	東武アーバンパークライン 約32分(急行)	流山 おおたかの森	徒歩 約18分
船橋	東武アーバンパークライン 約19分(急行)	柏	東武アーバンパークライン 約4分(急行)		
上野	JR常磐線 約25分(特別快速)		東武アーバンパークライン 約3分		
土浦	JR常磐線 約32分(特別快速)		東武バス西口2番のりば 約8分	梅 林	徒歩 約5分

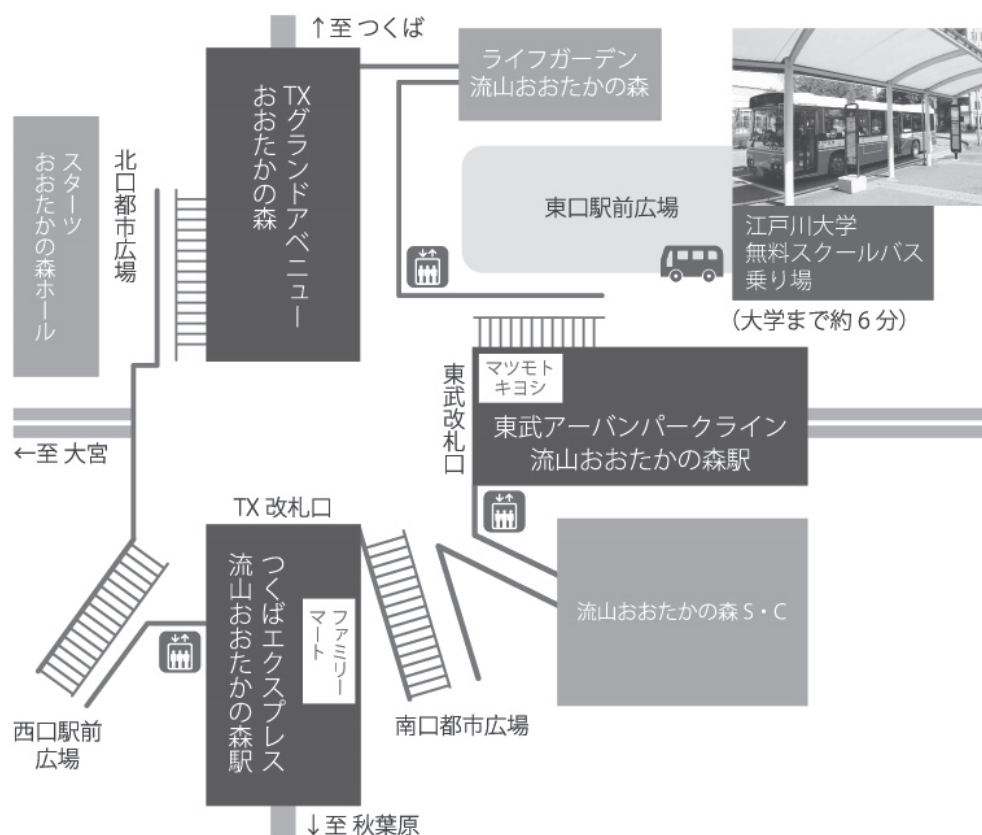
江戸川大学

- ・つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン『流山おおたかの森駅』からスクールバス約 6 分
- ・東武アーバンパークライン『豊四季駅』から徒歩約 12 分
- ・JR『柏駅』西口より東武バス（2 番のりば）に乗車、『梅林バス停』で下車（約 5 分）

<スクールバス>

スクールバスは大学正門前と流山おおたかの森駅を運行しています。
流山おおたかの森駅の停留所は東出口の路線バスの並びにあります。

「流山おおたかの森」駅周辺マップ



大会期間中は通常時と異なる臨時ダイヤ（次ページ参照）での運行となります。
あらかじめご確認のうえご来校ください。

8/30

流山おおたかの森駅発				時	江戸川大学発			
05	20	40	55	8	30			
	15	35		9	05	25	50	
00	20	40		10	10	30		
				11				
	10	40		12	00	30	50	
00				13	10			
		30	50	14		20	40	
	10	40		15	00	30	50	
00	20			16	10		50	
00		30		17		20	40	
				18	00	20	40	
				19	00	30		

8/31

流山おおたかの森駅発				時	江戸川大学発			
	20	40		8				
00	20	40		9				
00				10				
				11				
	20	40		12	10	30		
00				13				
				14				
				15			50	
				16	10	30	50	
				17		30		
				18				

今回の会場：大学講義棟（E棟）



ゼミ室 136 ゼミ室 135 ゼミ室 134 ゼミ室 133 ゼミ室 132 ゼミ室 131

機械室

100 映像ホール

女子 W-C

男子 W-C

学生ホール

111 演習室

112 DTPルーム

113 演習室

EDOGAWA LIVE STUDIO

122 調整室

機械室

ボヤ室

玄関ホール

101 学生ホール

102 演習室

EV

廊下

211 講義室

222 講義室

女子 W-C

男子 W-C

223 講義室

224 演習室

225 倉庫

201 演習室

202 講義室

203 演習室

212 講義室

213 演習室

吹抜け

廊下

EV

屋根

3 クローク

E102 教室に設置しております。

4 昼食・休憩

311 教室を使用可能です。

ただし、大学近隣に食事のできる場所やコンビニエンスストア等がないため昼食は各自ご用意ください（お弁当の販売はありません）。

なお、持参された昼食等のごみ及びペットボトル等は持ち帰りをお願いいたします。

5 書籍販売

101 教室（学生ホール）で実施しております。

6 その他

- ・会場内では、ネームプレート（名札）の着用をお願いいたします。
なお、ネームプレート（名札）は各自ダウンロードし印刷のうえ、大会当日ご持参ください。
※ネームプレート（名札）は Web 開催（オンデマンド配信）サイトよりダウンロード可能です。
- ・講演中の録音・録画はご遠慮ください。
- ・特別講演、公開シンポジウムは後日、アーカイブ配信を行います（小林隆児先生を除く）。

オンデマンド配信へのご案内

1 オンデマンド配信視聴の参加方法について

大会に参加される方には、参加登録後、ご登録いただいたメールアドレス宛にお申込み控メールが送信されております。Web 開催（オンデマンド配信）サイト URL を記載しておりますので、オンデマンド配信はこちらからご参加ください。

9 月 13 日（土）10 時より視聴可能となりますので、10 月 5 日（日）18 時までの期間内にご視聴ください。

2 動画の録画・撮影・転載を禁じます。

Developmentally-based, Relationally-focused Counseling

The Japanese Association of Counseling Science August 30, 2025

Richard Erskine (Institute of Integrative Psychotherapy)

host : Takayuki Muroki (Edogawa University)



In this introductory presentation to a Developmentally-based, Relationally-focused Integrative Psychotherapy, Dr. Richard Erskine will present the therapeutic concepts of Inquiry, Attunement, and Involvement.

Inquiry begins with the assumption that the counsellor or psychotherapist knows nothing about the client's experience and therefore I must continually strive to understand the subjective meaning of the client's behavior and interpsychic process. Therapeutic inquiry requires a genuine interest in the client's subjective experience and construction of meanings. It includes questions about the client's body sensations, affects, thought processes and memories.

With each phenomenological inquiry the counselor or psychotherapist provides an acknowledgement that demonstrates to the client that they are interested in their internal process. The counselor's use of Validation identifies the significance of how the client organizes experiences; it values the client's idiosyncrasies and ways of being in relationship. Genuine Involvement occurs when the behavior and communication of the counselor at all times respects and enhances the client's integrity. The counselor's authentic involvement facilitates the client's potential transformation.

Attunement begins with empathy: being sensitive to the client's sensations, needs, and feelings; and, the communication of that sensitivity to the other person. The communication of attunement validates the client's needs and feelings and lays the foundation for repairing the failures of previous relationships. Attunement to client's relational needs is essential in a relationally-focused psychotherapy. In this presentation Dr. Erskine will describe 8 relational needs and their significance in counseling and psychotherapy:

1. to experience security-in-relationship;
2. to have validation, affirmation, and significance in a relationship;
3. to feel accepted by a stable, dependable, and protective other person;
4. to have life's experiences confirmed through mutuality and a shared experience;
5. to know and express one's own uniqueness and receive acknowledgement;
6. to make an impact on others;
7. to have the other person initiate; and,
8. to express love.

発達に基づく、関係性に焦点を当てたカウンセリング

リチャード・アースキン博士 (Institute of Integrative Psychotherapy)

司会：室城 隆之 (江戸川大学)

発達に基づく、関係性に焦点を当てた統合的心理療法に関するこの導入的な講演で、リチャード・アースキン博士は、探求、調律、関与という治療的概念について説明します。

探求 (inquiry) は、カウンセラーやサイコセラピストは、クライアントの経験について何も知らないという前提から始まります。したがって、私たちは常に、クライアントの行動や精神的プロセスの主観的な意味を理解するよう努めなければなりません。治療的な探求には、クライアントの主観的な経験と意味の構築に対する純粋な関心が必要です。これには、クライアントの身体感覚、情動、思考過程、記憶に関する質問が含まれます。

現象学的な探求のたびに、カウンセラーやサイコセラピストは、自分が認識 (acknowledgement) したことを提示し、それによってクライアントに、クライアントの内的プロセスに関心を持っていることを示します。カウンセラーは承認 (validation) を用いることによって、クライアントが自分の経験を組織化する方法の重要性を明らかにし、クライアントの独自性や関係性におけるあり方を尊重します。純粋な関与 (involvement) は、カウンセラーの行動とコミュニケーションが、常にクライアントの尊厳を尊重し、高めるときに生じます。カウンセラーの真の関与は、クライアントの変容の可能性を促進します。

調律 (attunement) は、共感から始まります。それは、クライアントの感覚、ニーズ、感情に敏感であること、そして、その敏感さを他者に伝えることです。調律されたコミュニケーションは、クライアントのニーズと感情を承認し、過去の人間関係の不具合を修復する基盤を築きます。

クライアントの関係性のニーズへの調律は、関係性に焦点を当てた心理療法に不可欠なものです。この講演でアースキン博士は、カウンセリングと心理療法における8つの関係性のニーズとその重要性を説明します：

1. 関係性における安全感を体験すること；
2. 関係性において承認、肯定、そして重要性を得られること；
3. 安定し、信頼でき、保護的な他者から受け入れられていると感じること；
4. 相互性と経験を共有されることを通じて人生の経験を肯定されること；
5. 自分自身のユニークさを知り、表現し、認識してもらうこと；
6. 他者に影響を与えること；
7. 他者に主導してもらうこと；および、
8. 愛を表現すること。

特別招待講演 1

8月30日(土)

13:00 ~ 15:00

対面

後日アーカイブ配信あり

『アタッチメント理論の行方を占う』

遠藤 利彦 (東京大学大学院)

司会：室城 隆之 (江戸川大学)



アタッチメント (attachment) という言葉は、今や、ただ心理学や精神医学の専門的術語としてだけある訳ではなく、子育てや保育・幼児教育等の文脈を中心に、きわめて日常的に用いられるに至っている。そして、そうした文脈において、それは、親と幼い子どもとの間の緊密な情愛的絆、時には、その愛情関係全般の特質を指し示すものとして受け取られることも少なくはないようである。しかし、アタッチメント理論の創始者たる John Bowlby が示したその原義は、文字通り、生物個体が他の個体にくっつくこととする ("attach") ことに他ならなかった。彼は、個体がある危機的状況に遭遇したり、それを予知したりし、恐れや不安の情動が強く喚起された時に、特定の他個体への近接を通して、

主観的な安全の感覚を回復・維持しようとする行為傾向をアタッチメントと呼んだのである。

元来、生物は生き残り、繁殖するために、種々の危機に対して警戒する構えを、不安や恐れ的情動という形で進化させたと言われている。ヒトもその例外ではなく、恐れや不安に対する意識・無意識における対処が、個々人のパーソナリティやアイデンティティの形成において中核的な意味を有している。ただし、きわめて脆弱な状態で生まれてくるヒトの子どもは、誕生時から既にこうした情動の制御を自ら行い得る主体ではない。子どもは本源的に、養育者等の他者によって、手厚く保護され、その情動状態を巧みに調整・制御されなくてはならない存在として在る。そして、だからこそ、そこで経験される関係性のあり方が、個々人の生涯に亘る心身発達の道筋を大きく分岐させることになるのである。

Bowlby は自身の考えを、人の揺りかごから墓場までのパーソナリティ発達を統合的に理解するためのグランド・セオリーであると言明していた。彼の初期の仕事が「母性的養育の剥奪」という概念の提唱から始まったこともあり、アタッチメント理論は、当初、不当にも狭く、幼少の子どもとその母親との関係性に関わる理論という受け取られ方もした訳であるが、彼の中核的関心は、親に限定されない特定他者との間に築かれるアタッチメントの枢要な役割と、その関係性を喪失した際の人の心身全般に及ぶ脆弱性に注がれていたのである。そして、現に、今や、アタッチメント研究は乳児期から老年期に至るまでの全発達期に亘って、分厚く展開されるに至っている。また、世界各地で展開されている長期縦断研究は、すべての発達期において、その対象は誰であれ、その時々には築いている個人のアタッチメントの質が心理社会的適応性や心身の健康の鍵を握ること、加えて、複数の発達期に跨がって、アタッチメントの個人的特質にはかなりの時間的連続性ととも、ある程度の変容可能性も認められることを明らかにしてきているのである。

この度の拙話では生涯発達、進化、臨床という三つの視座から、現代アタッチメント研究の到達点を概括するとともに、さらに、その今後の行方について少しばかり個人的な思いを馳せることにしたい。

経歴：山形県生まれ。東京大学教育学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（心理学）。東京大学教育学部助手、聖心女子大学文学部専任講師、九州大学大学院人間環境学研究院助教授、京都大学大学院教育学研究科准教授、東京大学大学院教育学研究科准教授等を経て、現在、東京大学大学院教育学研究科教授。

専門：発達心理学・感情心理学・進化心理学。

著書等：『アタッチメント：生涯にわたる絆』（共編著：ミネルヴァ書房, 2005）・『読む目・読まれる目：視線理解の進化と発達の心理学』（編著：東京大学出版会, 2005）・『アタッチメントと臨床領域』（共編著：ミネルヴァ書房, 2007）・『愛着理論と精神分析』（共監訳・解題：誠信書房, 2008）・『心のかたちの探究：異型を通して普遍を知る』（共編著：東京大学出版会, 2011）『甘えとアタッチメント』（共編著：遠見書房, 2012）・『「情の理」論：情動の合理性をめぐる心理学的考究』（単著：東京大学出版会, 2013）・『アタッチメントとレジリエンスのあわい』（単著：子どもの虐待とネグレクト, 2016, 17（3）, 329-339）・『本当のかしこさとは何か：感情知性（EI）を育む心理学』（共編著：誠信書房, 2015）・『赤ちゃんの発達とアタッチメント』（単著：ひとなる書房, 2017）・『情動発達の理論と支援』（編著：金子書房, 2021）・『入門－アタッチメント理論：臨床・実践への架け橋』（編著：日本評論社, 2021）・『アタッチメントがわかる本：「愛着」が心の力を育む』（監修：講談社, 2022）・『発達の連続性と変化を問うということ：アタッチメント縦断研究に見るアポリア』（単著：発達心理学研究, 33（4）, 193-204）・『心を育み発達を支える：保育におけるアタッチメント』（単著：チャイルド本社, 2024）など

特別招待講演 2

8月31日(日)
10:00～12:00
対面のみ

情動と関係に焦点を当てた精神療法を 神経生物学の視点を交えながら考える

——アラン・ショアの理論を含めて——

小林 隆児（感性教育臨床研究所）
司会：室城 隆之（江戸川大学）



講演概要

これまでも精神療法において患者-治療者「関係」の重要性は指摘されてきたが、患者の精神病理や治療は専ら「個」に焦点が当てられ論じられてきた。しかし、今や「関係」の重要性が真正面から論じられるようになった。その契機となったのは心理学におけるパラダイム・シフトである。60年～70年代の行動、80～90年代の認知、そして今世紀に入ってから身体に基盤を持つ情動パラダイムへのシフトである。それを基礎付けているのが神経生物学の飛躍的な進歩である。脳画像研究が「脳の10年」を過ぎてから複数脳による生体の脳間連結性を実証的に掴むことを可能にしたからである。その結果、情動という事象に真正面から取り組むことが可能になった。さらに情動は当事者にも気づきにくい意識下（無意識）の事象であることから、神経生物学では無意識に注目が集まり、精神分析への再接近の動きが加速した。このような変遷の中で、アラン・ショアは「脳の10年」の前年に『感情調整と自己の起源』（1994）でデビューした神経精神分析家である。その後自説を発展させて調整理論を元に感情調整療法を生み出した（『精神療法という技芸の科学』2012、印刷中；『右脳精神療法』2019, 2022）。彼の理論の核心は「人間の初期発達（主に生後1年半まで）の体験を通して獲得された（あるいは、されなかった）脳の構造と機能は、生涯発達を通して、その雛形として働き続ける」「この時期の体験でとりわけ重要であるのは、主たる養育者との情動的な繋がりである」、「感情は一義的で、人間の体験の底、つまり心の生理的最深部の事象である」ということである。生後1年半に感情調整機能を司る右脳は成熟臨界期を迎えるため、アタッチメント形成過程での母子間の情動的コミュニケーションにおける情動調律の成否が感情調整機能を決定付ける。治療においては、人間の初期発達において、養育者との間で情動調律を介して成熟していく乳児の右脳の感情調整機能がアタッチメント形成不全によって損なわれ感情的絆は「断裂」するが、治療関係において情動調律を介して「修復」を目指す。ショアの処女作出版と同年に、演者は「甘え（情動）」と「関係」の視点から臨床研究の場としての母子ユニット（Mother-Infant Unit）を創設し実践を蓄積してきた立場から、ショアの感情調整療法を解説するが、その際、行動パラダイムで生まれたアタッチメント研究を「甘え」という情動パラダイムから読み解くとともに、ここで臨床家に求められる感性の重要性に着目し、私が試みている臨床家養成のための感性教育で得られた知見をもとに、臨床家の感性を磨くための処方箋を開陳する。

プロフィール

小林 隆児（こばやし りゅうじ）

1949年鳥取県米子市生まれ。児童精神科医、医学博士。1975年九州大学医学部卒業。福岡大学医学部精神医学教室入局後、大分大学、東海大学、大正大学を経て、西南学院大学を70歳で定年退職。その

後、感性教育臨床研究所代表として現在に至る。臨床活動は非常勤医師としてクリニックおぐら（東京都世田谷区）にて従事している。

専門分野は、乳幼児精神医学、児童青年精神医学、関係発達精神病理学、精神療法。

学会活動は、日本児童青年精神医学会理事、日本小児精神神経学会理事、日本小児精神神経学会会長、日本乳幼児医学・心理学会理事長などを歴任。現在、日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本精神分析学会、日本心理臨床学会、World Association for Infant Mental Health（世界乳幼児精神保健学会）に所属。今は精神疾患理解の脱構築に取り組むとともに、定期的にオンライン形式での感性教育講座を開催して臨床家養成に力を注いでいる。詳細については適宜以下のホームページを参照してほしい。

感性教育臨床研究所ホームページ <http://kansei-kobayashi.com>

メールアドレス kansei.kyouiku@gmail.com

主な著書、論文

代表的な著書は、『「関係」からみる乳幼児期の自閉症スペクトラム』『自閉症スペクトラムの症状を「関係」から読み解く』（ともにミネルヴァ書房），『あまのじゃくと精神療法』『関係の病としてのおとなの発達障害』（ともに弘文堂），『人間科学におけるエヴィデンスとは何か』（共編著，新曜社），『発達障害の精神療法』（創元社），『臨床家の感性を磨く』（誠信書房），アラン・ショア著・小林隆児訳『右脳精神療法』『アラン・ショア入門』（ともに岩崎学術出版社），アラン・ショア著・小林隆児訳『精神療法という技芸の科学（仮題）』（遠見書房，印刷中）。その他多数。

大会準備委員会・カウンセリング 心理士会共同企画シンポジウム

8月30日(土)
15:00～17:30
対面

後日アーカイブ配信あり

カウンセラーの発達 ースーパービジョンの視点からー

司 会：笈田 育子（NPO 法人カウンセリング教育サポートセンター）
シンポジスト：福島 哲夫（大妻女子大学）
岩壁 茂（立命館大学）



スーパービジョン（SV）は、カウンセラーの専門的力量を高めるための重要な教育的枠組みである。とくに心理臨床の現場においては、クライアント支援を担うカウンセラーが個別事例の特性に応じた適切な判断と介入を行うために、継続的かつ構造的な SV が必要不可欠である。Bernard & Goodyer（2009）は、SV を「評価的な上下関係に基づく専門性育成の手段」とし、Corey ら（2010）は、「継続的な観察と評価によって SVee（スーパーバイザー）の成長を促すこと」としている。

しかしながら、日本における SV の実施状況には多くの課題がある。継続的な SV を受ける機会が少ないばかりか、SV の定義や実施形態が学派や領域によって多様であり、評価方法も未整備である。また、SVor（スーパーバイザー）の不足や育成体制の未整備も深刻である。

一方、心理療法統合の立場からは、セラピストの有能さ（competency）は、理論的知識に加えて、「内省的な訓練」と「注意深く意図された練習（deliberate practice）」によって涵養されるとされる（Castonguay & Hill, 2017）。カウンセラーは自らの感情や反応への気づきを通じて、臨床における自己理解を深める必要がある。

福島は、上記のような SV の実効性を高める手段として「メタ・スーパービジョン（メタ SV）」を提唱し、実践研究を通じてその効果を検証している。30～40代の SVor 経験の浅い SVor に対し、経験豊富な50代のメタ SVor が介入を行うこの枠組みでは、SVor および SVee の自己理解と臨床スキルの向上が確認された。とくに、「クライアント理解」「セラピストの共感性」「課題の明確化」など、臨床的に重要な要素が SV を通じて洗練され、IDM（Integrative Developmental Model）に基づく発達が観察された。

また福島は勤務する大妻女子大学および成城カウンセリングオフィスでは、学部から大学院、そして卒業後教育までを一貫して構造化し、SV を中核とした臨床教育モデルを展開している。さらに SV 実施時の倫理的配慮として、「恥の感情」の取り扱いやソクラテス式質問法の多用回避、アサーティブな表現の補助などを強調しており、SV 関係の健全性を維持するための方策を提示している。

当日は、日本における実際の SV 場面の動画と、さらにその SV に対する指導（メタ SV）の動画を呈示しながら、望ましい SV に必要な条件やより効果的なバイザーを養成するためのトレーニング等について、できるだけ具体的に検討していきたい。

プロフィール

明治大学文学部日本文学科卒業、慶應義塾大学大学院博士課程単位取得満期退学。1999 年大妻女子大学人間関係学部専任講師を経て、現在は大妻女子大学人間関係学部社会・臨床心理学専攻および大学院臨床心理学専攻教授。人間関係学科長。

また、青山心理臨床教育センターでの 25 年の実践を経て 2014 年より成城カウンセリングオフィスを開設し、若手・中堅臨床心理士 18 名とともに実践にも励んでいる。

研究領域と実践の中心は、ユング心理学ならびに「その人その人に合わせた様々な心理療法（カウンセリング）を、工夫して適用する統合的心理療法」の具体的な方法と効果検証、さらにその指導。

主な著書、論文

主な著書は「心理療法統合の手引きー実践でのコツをつかむ」（2024, 共著）誠信書房、「心理療法統合ハンドブック」（2021, 共編著）誠信書房、「公認心理師必携テキスト」（責任編集, 2018）学研メディカル秀潤社、「臨床現場で役立つ質的研究法」（編著, 2016）新曜社、「記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション」（共著, 2015）北大路出版、「変容する臨床家」（共訳, 2013）福村出版、「臨床心理学入門」（共著, 2013）有斐閣、「ユング心理学でわかる 8 つの性格」（単著, 2011）PHP 研究所、「新世紀うつ支援・治療論ー統合アプローチ」（共編著, 2011）金剛出版、「事例でわかる心理学のうまい活かし方ー基礎心理学の臨床的ふだん使いー」（共著, 2011）金剛出版、「心理療法のできることできないこと」（共編, 1999）日本評論社。また近刊に「プロカウンセラーの人を見る技術」（創元社）がある。



カウンセラーの職業的成長にはスーパービジョンが欠かせない。スーパービジョン効果についてのメタ分析によると、スーパービジョンを受けることは、スーパーバイザーの職業的成長やスキル改善だけでなく、スーパーバイザーの職業的成長が担当するクライアントの改善にまで影響を与える（DePue et al., 2022; Park et al., 2019; Watkins, 2011）。もう一方で、望ましくないスーパービジョンの否定的な影響もクライアントにまで及ぶことが知られている（Ellis et al., 2014）。加えて、スーパーバイザーは、スーパーバイザーの批判を恐れて、本当に指導を必要としている点について話せずにいたりすることも少なくない。カウンセリングは、クライアントとカウンセラーの良好な対人関係のなかで行

われる。スーパービジョンにおいても良好なスーパービジョンのロールプレイ同盟が必要であり、その関係を積極的に作り、維持し、それに問題が起こったときに適切に扱い修復することが必要である。

日本においてスーパービジョンの訓練はまだ未整備であり、講演者が 2017 年に実施した研究では、その時点において、スーパービジョンを行っているが、過去に正規のスーパービジョン訓練を受けたことがある臨床心理士は 40% に満たなかった（岩壁, 2017）。つまり各自が自身が受けたスーパービジョンを元に指導を行っていたことになる。良い臨床家であることは必ずしも良いスーパーバイザーであるというわけではない。スーパーバイザーとしての資質、介入法、スーパーバイザーの臨床家としての職業的成長段階などについて知ることによってはじめて適切な指導が可能になる。

本発表では、スーパービジョンのデモンストレーションビデオを観ながら、スーパービジョンにおける重要な介入について解説していきたい。特に、スーパービジョン同盟の確立の仕方、介入スキルの指導、セルフアセスメントの促進、評価・フィードバックの伝え方に焦点を当てる。本講演を通して、スーパービジョンが、カウンセリングの質をモニターし、スーパーバイザーの職業的成長を促進し、理論と技法の学習を促すための指導方針について具体的に示していきたい。そして、実効性をもつスーパーバイザー養成についても検討する。

プロフィール

カナダ McGill 大学カウンセリング心理学科で博士号取得。2000 年、札幌学院大学助教授、お茶の水女子大学教授を経て 2022 年より立命館大学総合心理学部教授。The Society for Exploration of Psychotherapy Integration (SEPI) 理事長 (2020-2021)、The Society for Psychotherapy Research 理事長 (2024-2025)、Counselling Psychology Quarterly 共同編集長 (2018- 現在)。心理療法プロセスと効果、および臨床訓練と臨床家の職業的成長の研究を専門とする。エモーションフォーカストセラピー (EFT) や加速化体験力動療法 (AEDP) という感情に焦点を当てた統合アプローチの研究を行ってきた。2017 年よりエモーション・フォーカスト・セラピー研究所を開設し、数名の臨床家とエモーション・フォーカスト・セラピーに関する訓練、および個人とカップルのカウンセリング、スーパービジョンなどに取り組んでいる。エモーション・フォーカスト・セラピーの国際トレーナー資格ももつ。

主な著作

心理療法・失敗例の臨床研究 - その予防と治療関係の立て直し方 (単著) (金剛出版, 2022 年 6 月)
岩壁茂・遠藤利彦・黒木俊秀・中嶋義文・中村知靖・橋本和明・増沢高・村瀬嘉代子 (編著) 臨床心理学スタンダードテキスト (2023, 金剛出版)

よくわかる臨床心理学 (ナツメ社, 2020)

恥 (シェイム) …生きづらさの根っこにあるもの アスクセクション (単著) (アスク・ヒューマン・ケア, 2019 年 4 月)

はじめて学ぶ臨床心理学の質的研究—方法とプロセス (単著) (岩崎学術出版会, 2010 年 10 月)

プロセス研究の方法 (単著) (新曜社, 2008 年 7 月)

Gazzola, N., Iwakabe, S., & Knox, S. (Eds.) (2024). *Therapeutic failures in psychotherapy*. Routledge.

Iwakabe, S., & Knox, S. (Eds.). (2023). *How the covid-19 pandemic transformed the mental health landscape: Practice, Training, Supervision, and Research*. (Vol. II). Routledge.

Iwakabe, S., & Knox, S. (Eds.) (2023). *How the covid-19 pandemic transformed the mental health landscape: Transitioning to telepsychotherapy effectively* (Vol. 1). Routledge.

大会長講演

8月31日(日)

13:00～14:00

対面

後日アーカイブ配信あり

カウンセリングにおいて、関係性はなぜ重要なのか

室城 隆之 (江戸川大学)



講演概要

カウンセリングにおいて、クライアントとカウンセラーの関係性が重要であることは、様々な研究から実証されてきているところです。

パーソン・センタード・アプローチにおいて、ロジャースは「自己一致」「無条件の肯定的配慮」「共感的理解」の重要性を主張しました。交流分析やゲシュタルト療法においても、近年、関係性が重視される傾向にあります。また、精神分析においても、「関係性精神分析」という考え方が主張されていますし、認知行動療法においても、治療関係の重要性についての研究が行なわれています。このように今日では、どのようなアプローチをとるにしても、クライアントと

カウンセラーの関係性が重要であることに、疑いを持つ人は少ないのではないのでしょうか。

しかし、それが重要なのは、なぜなのでしょう。その理由については、必ずしも明確ではありません。もちろん、カウンセリングという共同作業を行なう上で、両者の信頼関係や協力関係が基盤となることは、言うまでもありません。しかし、カウンセリングにおいて関係性が重要であるのには、それ以上の理由があると考えられます。

今回の大会では、「発達と関係性に焦点を当てたアプローチ」をテーマとし、カウンセリングにおいて関係性が重視される理由としての、発達の、脳科学的な視点について学ぶ機会とすることを目的としました。大会長講演では、本大会における基調講演、特別招待講演、シンポジウムの内容を振り返りながら、改めてカウンセリングにおける関係性の重要性について考えてみたいと思います。

プロフィール

室城 隆之 (むろき たかゆき)

東京成徳大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻博士後期課程修了(心理学博士)。

臨床心理士。公認心理師。国際交流分析協会教授会員(心理療法分野)。日本ゲシュタルト療法学会認定トレーナー。日本集団精神療法学会認定スーパーバイザー。

現在、江戸川大学社会学部人間心理学科教授(臨床心理学・犯罪心理学)。

他に、上智大学、明治大学、明治学院大学などで非常勤講師として勤務。

主な著書

『心理臨床とセラピストの人生：関わり合いのなかの事例研究』(共著, 2015) 創元社

『生きづらさを手放す－自分らしさを取り戻す再決断療法』(単著, 2017) 春秋社

など

カウンセリングの現在地

沢宮 容子（東京成徳大学）



講演概要

本大会のテーマは、「発達と関係性に焦点を当てたアプローチ」です。

人は、関係性の中で生まれ、時に傷つき、そしてまた、時に安らぎます。そのような営みの中で、カウンセリングは単なる技術や理論ではなく、「ともに在る」ことを支える対話の場として、きわめて重要な意味を持っています。

私たちの社会はいま大きな変化の渦中にあります。AI技術の発展、オンラインによるコミュニケーションの普及、多様性の尊重など、多くの動きが同時に進行しております。一方で、分断や孤立、不安といった問題が、私たちの日常に静かに浸透している現状も見逃すことはできません。

これから私たちが直面するであろう多くの課題に対して、カウンセリングはどのように応答し、貢献していけるのか。その答えは、私たち一人ひとりの姿勢と実践によって、見出されていくものであると思います。本大会が、皆様にとって新たな知見や刺激との出会いの場となり、日々の研究や実践に新しい光をもたらすことを心より願っております。

プロフィール

東京成徳大学教授、筑波大学名誉教授。博士（心理学）（筑波大学）。

カウンセリング心理士、日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー、臨床心理士。

2009年 日本カウンセリング学会独創研究－内山喜久雄記念賞受賞

2015年 筑波大学人間系優秀教員賞受賞

2023年 筑波大学人間系優秀教員賞受賞

2007年～2010年常任理事、2010年～2018年事務局長、2018年～2022年（6月）副理事長、2022年（6月）～理事長

主要論文、著書

「臨床心理学と心の健康」東京大学出版会

「楽観的帰属様式の臨床心理学的研究」風間書房

「人を育む愛着と感情の力：AEDPによる感情変容の理論と実践」福村出版

『臨床実践を導く認知行動療法の10の理論：「ベックの認知療法」から「ACT」・「マインドフルネス」まで』星和書店

他、論文、著書多数

受賞者講演

8月31日(日)

14:00～15:00

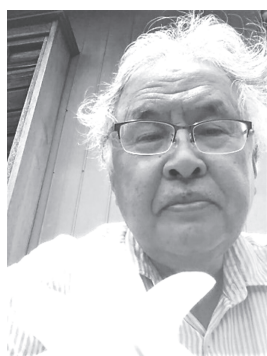
対面

後日アーカイブ配信あり

フォーカシング指向アプローチによる セルフヘルプ・フォーカシング：

心の風景天気図と心のつぼ

伊藤 義美（名古屋大学名誉教授）



講演概要

ジェンドリン（Gendlin, E.T., 1926-2017）のフォーカシング（Focusing）は、心理治療をはじめ多領域で用いられる。演者は、フォーカシング指向アプローチ（FOA）を用いたセルフヘルプ・フォーカシングの構築、特に「心の風景天気図（風天図）フォーカシング」と「心のつぼフォーカシング」に取り組んでいる。心の風天図はフェルトセンスを感じて表現する方法、心のつぼフォーカシングは心の空間づくりの方法として優れている。ともに個人、ペア、集団で実施できる。「心の風景天気図（風天図）フォーカシング」と「心のつぼフォーカシング」の手続きと実践研究を紹介する。「心の風天図フォーカシング」は、からだの感じ（フェルトセンス）を風景や天気にとえて絵（風天図）に描く方法である。風天図の中の好きなアイテムとフォーカシング・ワークを行うこと、心の風天図を2回続けて行うことにも特徴がある。適用対象が広く、フェルトセンス描画には天気、風景・情景などが含まれる。2回の風天図と体験を比較して心の変化を確認しやすい。「心のつぼフォーカシング」では、心のつぼを描き、そのつぼ（壺、容器）の中に気がかりを思い浮かべて何か（印や記号など）で表す。次に気がかりを一つずつ丁寧につぼ分けする。気がかりなつぼを一つとりあげ、そのつぼを鑑賞してそのフェルトセンスを感じる。自分で描いた癒しのつぼの中に入って十分な癒しを体験し、つぼから出て終わる。こころのつぼは、何重もの安全策が施されている。心の風天図と心のつぼを実施し体験することで心のメッセージを受け取るとともに、内的プロセスが推進する体験的ステップを得ることができる。

プロフィール

名古屋大学名誉教授。名古屋大学大学院教育学研究科博士後期課程満了、博士（教育心理学）。専門：カウンセリング心理学、臨床心理学、パーソンセンタード・アプローチ（PCA）、フォーカシング＆フォーカシング指向アプローチ、エンカウンター・グループ。東海相談学会会長、日本人間性心理学会元理事長、日本カウンセリング学会元理事。公認心理師、臨床心理士、認定フォーカシング・コーディネーター（米国国際フォーカシング研究所）。「日本カウンセリング学会」奨励賞及び学会賞受賞、「日本人間性心理学会」学会賞受賞。

主な著書、論文

『フォーカシングの空間づくりに関する研究』（風間書房、2000年）、『フォーカシングの展開』（ナカニシヤ出版、2005年）（編著）、ビクス法フォーカシングの小学生への実践的適用（2）、カウンセリング研究、28（1）、28-36、1995.、「ことばや語句」と「絵や写真」についてのフォーカシング体験の比較検討（共著）、カウンセリング研究、39（2）、63-71、2006.、Experiential manner as a mediating factor

between clearing a space and self-efficacy. (共著), *Person-Centered & Experiential Psychotherapies*, 10 (2), 106-115, 2011.

第 57 回大会会員集会

- ①開会
- ②理事長挨拶
- ③名誉会員・推薦会員報告
- ④各賞授与式
- ⑤第 57 回大会長挨拶
- ⑥次期大会長挨拶
- ⑦閉会

S-A1

対人関係ゲームのさらなる可能性を求めてⅨ ～対人関係ゲームによる学級へのアウトリーチ支援の在り方～

●企画者・司会者：岸田 優代（長野県教育委員会）

●話題提供者：伊澤 孝（栃木県教育委員会）

西澤 佳代（長野県教育委員会）

松澤 裕子（須坂市教育委員会）

●指定討論者：田上不二夫（筑波大学名誉教授）

【企画要旨】

対人関係ゲームとは、言語的・非言語的に人とのかかわり合う遊びを使って、人と人との心理的につなぐカウンセリング技法である（田上，2018）。対人関係ゲームを導入した学校・学級では、学級の満足感・親和性の高まり、孤立児と学級の関係性の改善、学級崩壊からの脱却等多くの事例が報告され、担任自身が教室で行うカウンセリング技法としての有効性が広く認められている。

本シンポジウムでは、学級担任以外の様々な立場の支援者が対人関係ゲームにより、学級および学級担任を支援した事例から、対人関係ゲームによるアウトリーチ支援（学校・学級外からの支援）の在り方について、その可能性を論じ合いたい。

S-B1

今、あらためてカウンセリング訓練を問い直す

- 企画者・話題提供者・指定討論者：藤生 英行（筑波大学）
- 司会者・話題提供者：吉原 寛（松本大学）
- 話題提供者：浦口真奈美（聖路加国際大学）
田中 裕子（筑波大学）

【企画要旨】

日本にカウンセリングが紹介され事例選（飯塚・関口, 1977）が出版されてから約 50 年が経った。これを契機に、カウンセリング訓練について、さまざまな職種からの現状と現在の訓練の状況についてご報告頂き、今後の方向性について議論し、それらを通して「カウンセリング訓練」について考え直す機会として位置づけられればと思う。この議論には、1967 年設立の日本カウンセリング学会が相応しいと考えた。

吉原氏は、教員及び教職志望学生のカウンセリング訓練の問題点について、教職センター、教職大学院、教職課程をもつ大学での現状を踏まえて、話題提供を行う。浦口氏は、看護師および保健師におけるカウンセリング訓練と問題点について、養成大学および大学院における現状を概観し、看護師養成に求められる方向性について話題提供を行う。田中氏はソーシャルワークにおけるカウンセリング訓練の現状と課題を話題提供を行う。藤生はカウンセリング訓練に AI 導入の可能性について話題提供を行う。これらを受けて、フロアからの情報提供を含め広く討論を行いたい。

カウンセリングと「読書療法」2

- 司会者・話題提供者：平宮 正志（国士舘大学・神田外語大学）
- 企画者・司会者：林 潔（Australian and NZ Student Services Assn）
- 話題提供者：藤枝 静暁（埼玉学園大学大学院）
吉川 正剛（大手前大学）

【企画要旨】

今回のシンポジウムは、企画者林潔先生のもと、3名の学会員が『カウンセリングと「読書療法」2』のテーマで、カウンセリングにおける読書の活用について話題提供したものである。3名の話題提供者の氏名・主題(副題)・(キーワード)は、吉川正剛先生『大学キャリア教育授業における「読書」の活用』（首尾一貫した同一性、人生100年時代のキャリア、生きる勇氣）、藤枝静暁先生『カウンセラーによる読み聞かせが保護者の子育て相談に対する心理的抵抗感に与える影響』（幼稚園、子育て相談、読み聞かせ）、平宮正志『大学での読書感想文を課題とした実践その2—読書カウンセリングとスタディスキルの視点をふまえて—』（読書感想文、読書カウンセリング、スタディスキル）である。

当日は、カウンセリングにおける読書の有用性を討論して頂くと同時に、会場に参加して頂いた方々の活用法や工夫を聞かせて頂ければ幸いである。なお今回の『カウンセリングと「読書療法」』を主題としてのシンポジウムは、今回で2回目である。1回目は2019年日本教育カウンセリング学会第17回大会で、参加者は林潔先生、稲垣応顕先生、平宮正志の3名であった。

S-B3

ロールプレイで育てるカウンセリング実践力 —実践する勇気、失敗する覚悟—

- 企画者：中山 暁理（作新学院大学臨床心理センター）
- 指定討論者：田所 摂寿（作新学院大学人間文化学部）
- 話題提供者：佐藤 美保（作新学院大学臨床心理センター）
新垣 エリ（社会医療法人葦の会オリブ山病院）
竹澤 淳子（作新学院大学院心理学研究科）

【企画要旨】

本シンポジウムでは、カウンセラーとしての専門性を高める手法として、ロールプレイ（RP）を活用した体感型トレーニングに焦点を当てる。カウンセラーには、クライアントの利益を最大限に尊重しつつ、カウンセラーとしての自己理解と知識のアップデートを継続することが求められる。そのためには、実践的なトレーニングが不可欠であり、RPはその一つの有効な手段であると考ええる。

RPトレーニングは、模擬カウンセリングを通して実践力を養うものであり、特に「失敗を恐れずに挑戦する姿勢」が重要視される。参加者は役割を演じ、フィードバックを受けることで自己の課題を深く認識し、実践的な学びを得ることができる。一方で、適切な指導者がいない場合にはトレーニング効果が減少する可能性もあり、運営や構成には工夫が必要となる。

本シンポジウムでは、話題提供者が各自の立場からRPトレーニングの方法やメリット/デメリット、どんなことが学べるのかについて報告した後、実際にその場でRPトレーニングの実演を行う。さらに、指定討論者および参加者との意見交換を通して、効果のあるRPトレーニングの在り方について議論を深めることを目的とする。

キーワード：カウンセラー教育、ロールプレイトレーニング、自己理解、専門性の向上

S-A2

不登校と発達障害・情緒障害の理解・支援を考える －複合的な問題を読み解く視点と支援の手だて－

- 企画者・指定討論者：三浦 巧也（東京農工大学）
- 司会者・話題提供者：橋本 創一（東京学芸大学）
- 話題提供者：竹達 健顕（東京農工大学）
本宮久仁彦（東京学芸大学大学院）
日下虎太郎（明治学院大学）

【企画要旨】

現代の教育現場において、不登校、発達障害、情緒障害の問題は複雑に絡み合い、多くの子どもたちが困難を抱えている。これらの背景には、個々の特性に対する社会的理解の不足や、支援体制の不備が存在しており、教育・福祉・医療の連携が求められている。そこで本シンポジウムでは、不登校や発達障害、情緒障害についての正しい理解を深めるとともに、支援の在り方を多角的に議論する。話題提供として、橋本先生からは「発達障害・情緒障害と不登校の研究動向」について発表いただく。竹達先生からは「進路多様校における五月雨登校の実態」について発表いただく。本宮先生からは「特別支援学校における不登校の実態」について発表いただく。日下先生からは「通常学校における不登校予防と支援の実態」について発表いただく。本シンポジウムを通して、専門家、教育関係者、当事者等の声を交え、現場で直面する課題や効果的な支援方法について共有し、すべての子どもが安心して学び、成長できる社会の実現に向けて考える機会とする。支援に関わる全ての人々にとって有益な場となることを目指す。

P

- ▶ P-A1 「仮面登校」の中学生の实態 (2)
学級での居心地の良さと家族からの理解

木村 文香 (共栄大学教育学部)
松岡 靖子 (川村学園女子大学文学部)
酒井 朗 (上智大学総合人間科学部)

- ▶ P-A29 「仮面登校」の中学生の实態 (3)
相談行動とソーシャルサポート

松岡 靖子 (川村学園女子大学)
木村 文香 (共栄大学)
酒井 朗 (上智大学)

- ▶ P-A6 児童期後期における将来の夢の規定要因の検討Ⅱ
自己効力感が将来の夢に与える影響

木下 雅博 (東大阪大学短期大学部)

- ▶ P-A7 2つのグループ体験の違いに関する研究
—構成的・半構成的なエンカウターの比較—

水野 邦夫 (帝塚山大学心理学部)

- ▶ P-A10 中学校時代の登校回避感情のタイプ分けとタイプによる登校理由の検討

川崎 海人 (富山大学大学院人文社会芸術総合研究科)
喜田 裕子 (富山大学学術研究部人文科学系)

- ▶ P-A11 対人関係ゲームを活用したソーシャルスキル学習の効果

松澤 裕子 (須坂市教育委員会)
田上不二夫 (筑波大学名誉教授)

- ▶ P-A18 小学生における友人関係、学習意欲の縦断的变化と援助ニーズとの関連

藤原 和政 (兵庫教育大学)
川俣 理恵 (島根大学)
粕谷 貴志 (奈良教育大学)

- ▶ P-A20 小学校低学年における学級集団の状態と教育的ニーズとの関連

川俣 理恵 (島根大学教育学部)
藤原 和政 (兵庫教育大学)
水谷 明弘 (鈴鹿大学)

- ▶ P-A23 欲求支援行動が初年次学生の大学適応に及ぼす影響

中村 葵 (聖徳大学心理・福祉学部)
佐伯 素子 (聖徳大学心理・福祉学部)

- ▶ P-A26 高学年児童を対象とした強み心理教育の効果に関する検討（1）
 —数量的結果に注目して—
 梶原 真衣（株式会社水戸心理・療育センター）
 藤枝 静暁（埼玉学園大学）
- ▶ P-A31 小学校低学年へのストレスマネジメント教育の暴力抑止効果
 門野 明子（大阪市立西九条小学校）
 石井佐千代（兵庫県スクールカウンセラー）
- ▶ P-A36 児童の本来感が抑うつに与える影響
 尾花真梨子（江戸川大学社会学部）
- ▶ P-A38 社会的スキルと肯定的再評価に着目した個別最適化 CBT 教育
 富家 直明（北海道医療大学）
 西塚 拓海（北海道医療大学）
 新川 広樹（弘前大学）
 前 小夏（北海道医療大学）
 永潟 悠（北海道医療大学）
 福田 優心（北海道医療大学）
- ▶ P-A44 児童の自己肯定感、教師・友人からのソーシャルサポート、学習への認識
 の関連
 古池 若葉（京都女子大学発達教育学部）
 石井 陽菜（学校法人ザビエル学園）
- ▶ P-B2 精神疾患をもつ母親当事者グループの参加者が語る体験
 森本 淳子（神奈川県立保健福祉大学）
- ▶ P-B3 男性部下の長期育児休業に対するネガティブ感情と職場風土
 尾野 裕美（筑波大学人間系）
- ▶ P-B8 カウンセリング中の困難・懸念・工夫と感染防止対策との関連
 新型コロナウイルス感染拡大下におけるクライアントの体験 1
 福井 晴那（立正大学心理学部）
 小野 聡士（大妻女子大学人間関係学部）
 青木佐奈枝（立正大学心理学部）
- ▶ P-B5 カウンセリングに出向く際に生じる懸念の分類
 —新型コロナウイルス感染拡大下におけるクライアントの体験 2—
 青木佐奈枝（立正大学心理学部）
 福井 晴那（立正大学心理学部）
 小野 聡士（大妻女子大学人間関係学部）

▶ P-B4	計量テキスト分析によるカウンセリング受療に伴う困難の検討 ——新型コロナウイルス感染拡大下におけるクライアントの体験3—— 小野 聡士（大妻女子大学人間関係学部） 青木佐奈枝（立正大学心理学部） 福井 晴那（立正大学心理学部）
▶ P-B13	恋人から束縛された被害者は、罪悪感を抱くと束縛に応じやすくなるか 笹竹 英穂（至学館大学）
▶ P-B17	感情自己効力感が認知的感情制御と精神的健康に及ぼす影響 坂野 尚子（医療法人つくばねむりところのクリニック） 佐伯 素子（聖徳大学）
▶ P-B19	親への感情的ニーズの完結による自己の癒し グリーンリカバリーメソッド®による主体的プロセス 吉岡 文（WHAT リカバリー株式会社）
▶ P-B22	大学生のインターネット依存傾向とソーシャルサポートおよびパーソナリティ特性との関連 菊地 創（愛知県立大学教育福祉学部） 富田 拓郎（中央大学文学部）
▶ P-B28	基本的心理欲求、仕事へのパッション、well-being との関連 久保 尊洋（横浜国立大学教育学部）
▶ P-B35	貧困に関するアンコンシャスバイアス研究の系統的レビュー 心理支援・制度設計・教育への応用可能性の検討 高橋 浩介（横浜市西福祉保健センター）
▶ P-B37	最小限の社会的交流がポジティブ感情および所属感に与える影響 田中 圭（聖徳大学心理・福祉学部） 沢宮 容子（東京成徳大学応用心理学部） 酒井 智弘（ミイダス株式会社 HR サイエンス研究所）
▶ P-B40	幼少期の情緒的親役割代行尺度作成の試み 杉崎 愛斗（立正大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻） 青木佐奈枝（立正大学心理学部）
▶ P-B41	ギャンブル行動の維持メカニズムにおける認知バイアスの機能の検討 田中 佑樹（和洋女子大学人文学部） 野村 和孝（北里大学医療衛生学部）
▶ P-B43	社会的支配志向性と精神疾患に対する態度の関連 潜在連合テストによる検討 中山 真（皇學館大学文学部）

- ▶ P-C9 箱庭療法に使用する箱の大きさにバリエーションを持たせる意義について (2)
丹治 光浩 (花園大学社会福祉学部臨床心理学科)
- ▶ P-C12 学童クラブ支援員の悩み・困り感と支援ニーズに関する研究
東京都 A 市の調査から
田島真沙美 (東京女子体育大学・東京女子体育短期大学)
- ▶ P-C14 ポエトリーカウンセリング研究の歩み
「生きる」をテーマとした詩作活用エクササイズを交えて
平宮 正志 (国士舘大学・神田外語大学)
- ▶ P-C15 保護司活動における年代の影響比較検討
中年保護司と高齢保護司の異同
須賀 仁礼 (中央区保護司会 保護司)
- ▶ P-C16 教職志望学生のコミュニケーションスキルに関する研究
吉原 寛 (松本大学人間健康学部)
- ▶ P-C21 保育専門職を目指す学生の発達障害者への意識
顕在的・潜在的指標の分析から
中村麻衣子 (フェリシアこども短期大学)
松田こずえ (武蔵野大学)
- ▶ P-C24 Routine Outcome Monitoring (ROM) の活用に関する心理臨床家への定性研究
ROM を日常臨床に取り入れるための予備的調査
田所 摂寿 (作新学院大学人間文化学部)
中山 暁理 (作新学院大学臨床心理センター)
新垣 エリ (オリブ山病院)
- ▶ P-C25 カウンセリング場面におけるカウンセラーの沈黙の捉え方に関する研究
経験を積んだカウンセラーに着目して
遠藤 晃李 (宮原メンタルクリニック)
山口 豊一 (聖徳大学)
富島 大樹 (川村学園女子大学)
- ▶ P-C27 保育経験年数による「気になる保護者」への対応頻度の差異に関する研究
宮前 淳子 (香川大学教育学部)
- ▶ P-C30 正規職母親の育児休業復職後の生活に対する期待感・不安感尺度の作成
持田 聖子 (ベネッセ教育総合研究所)
岡田 昌毅 (筑波大学)

- ▶ P-C32 教員のストレングススポッティングに与えるワークファミリーバランスや
学校状況の影響

森本 哲介（兵庫教育兵庫教育大学）
高橋 誠（神奈川大学）
- ▶ P-C33 支援者―親―子の関係性に基づく変容の連鎖
―実存主義的アプローチとストレングスモデルを基盤とした親子関係の再構築―

田島 羊恵（特定非営利活動法人カウンセリング&コミュニケーション・ミュー）
山本 泉（特定非営利活動法人カウンセリング&コミュニケーション・ミュー）
- ▶ P-C34 親とともに考える子育ての意味と関係性
実存主義・ストレングスモデル・PTをつなぐ実践から

山本 泉（特定非営利活動法人カウンセリング&コミュニケーション・ミュー）
- ▶ P-C39 支持的な指導をこころみた学生の変化の事例

上原 巖（東京農業大学）
- ▶ P-C42 思春期の自律神経疾患における心理社会的要因の考察
外来受診例の分析から見た臨床的特徴

飯田 俊穂（安曇野内科ストレスケアクリニック）
飯田 光子（安曇野内科ストレスケアクリニック）
飯田 香穂（安曇野内科ストレスケアクリニック）

日本カウンセリング学会第 57 回大会後援団体、機関

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会

一般社団法人 日本臨床心理士会

一般社団法人産業カウンセラー協会

一般社団法人日本キャリア・カウンセリング学会（旧：一般社団法人日本産業カウンセリング学会）

一般社団法人学校心理士認定運営機構／日本学校心理士会

一般社団法人日本心理学諸学会連合

一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会

千葉県公認心理士協会

流山市教育委員会

日本交流分析協会

日本ゲシュタルト療法学会

NPO 法人日本 TA 協会

日本交流分析学会

日本カウンセリング学会第 57 回大会準備委員会委員



大会委員長：室城 隆之（江戸川大学）

大会支援委員長：笈田 育子（NPO 法人カウンセリング教育サポートセンター）

大会事務局長：井ノ山正文（教育環境研究センター）

大会準備委員：田上不二夫（筑波大学）

大会準備委員：田中 圭（聖徳大学）

大会準備委員：岸田 幸弘（松本大学）

大会準備委員：小松 賢亮（和光大学）

大会準備委員：尾花真梨子（江戸川大学）

大会準備委員：西澤 佳代（長野県教育委員会）

大会準備委員：森本 哲介（兵庫教育大学）

大会準備委員：藤井 由利（文京区子ども家庭支援センター）



一般社団法人日本カウンセリング学会第 57 回大会事務局

E-mail : cou56meiji@gmail.com